

座敷童子選考用台本（島村 透）

しまむら とおる

注意事項

- (一) 選考用のセリフは二頁以降に記載しています。
- (二) 選考用のセリフの間に他の役のセリフがある場合は読んでも構いません。
- (三) セリフを読む際は何ページのセリフかを言う様にして下さい。
- (四) 非常に読みにくい役が多い為、読み間違えの内容にお願い致します。
- (五) 締め切り後の受付は一切出来ませんのでご了承下さい。
- (六) 録音台本とは異なる場合がございます。ご了承下さい。
- (七) 全体像は原作サイトでご確認下さい。

座敷童子

森井 ……あ……の……
春田 頑張れさくらっ
透 (小さくため息)……はあ。
SE (グラウンドを歩く音) I N
春田 あれっ!？行っちゃうよっ?
森井 あっ、やだ…待ってっ…!!
透 早く帰りたいんだけど
森井 あ、ごめんね、ちよつとだけ。その……やっぱりダメ……かなあ?
透 なにが?
森井 その……
透 (モノローグ) 最近毎日だな……。

座敷童子

座敷童子

透 退部した俺に戻ってきて欲しいと誘ってきている。それも、ここんとこ毎日。
森井 ああ、もう・・・じれったいなあ・・・オカルト部でしょ？
透 あ、はい！それでっ
透 (言葉を遮って)ごめん、今は受験の方が大切だと思うから部活はちよつと・・・
森井 そう・・・だよね・・・ゴメン・・・
透 うん、じゃ。
春田 ちよちよ、ちよつと待ってよ島村君っ
透 まだ何かある？
春田 あのだ、名前、名前だけ・・・幽霊部員でいいから、協力してくれないかな。
森井 ・・・・

座敷童子

春田 その・・・たまには部活にも顔出して欲しいけど・・・無理しなくていいし・・・
森井 ね、さくらっ？
透 うん、うん、もちろん。
春田 一番の目的は「学園祭に参加して欲しい」でしょ？最初から言えばいいのに。
透 そんなこと・・・そんな言い方ってないじゃない・・・
森井 ごめん。でも俺はもう戻らないからさ。
透 (グラウンドを歩く音) IN
透 (選考用セリフ その二)
透 (森の中を歩く音) BG
透 (一足を止める音) IN
透 あ・・・これこれ、たしか、このベンチがじいちゃんとの待ち合わせのはず。

座敷童子

桂 透 桂 透 桂 透 桂 透
S E

へっ！

事情は後で話す。さっさと付いて来い。

それとも一人で家まで辿り着ける自信があるか？

いや、あ、行きます！

(走る音) I N

間

ちゃんと道を憶えながら歩くんだぞ

はあ。

これこれ、この杉の木まできたらあともう少しだ。

おじいちゃん……

なんだ？

うーん……言われてみればじいちゃんに見えなくもないけど……

なんだ、まだ何か考えていたのか……

座敷童子

桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透

ちよつと遅れたな

……あ、……え？

どうした？透だろう？

いかにも……下の名前は透……ですが……

私だ、じいさんだ

……あー……あ？

十年ぶりだな

は……

(モノローグ)しかし、そのとき俺の前に立っていたのは「じいさん」と呼ぶにはほどとおい、背の高い「お兄さん」だった。

ほう……さては真樹から何も聞いてないな……？

(モノローグ)どうみたってこれは二十代後半の顔だよな、まさか人違い……

透？突っ立ってないで早く行くぞ。

座敷童子

桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透

その時、犬養毅いぬかいつよしはな、右翼うよくに向かって……
（小声で）教科書で読んだなア……
この仁徳稜にんとくというのはな、周りに円筒埴輪えんとうがな……
うんうん……
と、うちに着いた。
えっ!?!?
何を驚おどろいている?
いや……こんな場所ばしょだったかなあって……
歩いて家まで来たことはなかっただろう?こんな場所ばしょなんだよ。
そっか……
そうだ、たとえばな、透。

座敷童子

透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透

何か秘薬ひやくでも使ったとか……
秘薬ひやくか……まあ、そんな名前の運命うんめいっていうところだな
わっ!
今度はどうした。
じいちゃんに心の中こころのちゆう読よまれた!
お前おまへ全部声こゑに出して言いってたぞ……
ったく、人を化け物ばけもの扱いあつかいしやがって。
はは……
まあ信じられなくても無理無理はないさ。今いまにわかる。そうだなー、証拠しんこに私が生なきていた時の話はなしをしよう……いいか。第二次世界大戦だいにせかいだいせんが……
間
その「じいちゃんが生きていたときの話」は、家に着くまでの数十分、延々と続いた。

座敷童子

あんず
桂
あんず

ふわあ（あくびする）
そこで退屈してお姫様のことも話さなくちゃいけないな。
んあ・・・お話終わったの？

（選考用セリフ その三）

透 桂 透 桂 透 桂 透

・・・液？
この傷は私が先刻葉につけた傷と同様のものだ。
なんでじいちゃんの腕が傷つくんだ・・・？
そう、今こそ言う時が来たな。透。私は樹だ。この樹は『桂』という。
かつら・・・
実は昨年、人間としての役目は終えたのだよ。
・・・

座敷童子

桂 透 桂 透 桂 透 桂 透 桂 透

ん？
こうしたら信じられるかもしれん。
（モノローグ）そう言うと同じちゃんは近くに植えてある大木から葉を一枚、
プツリと手で取った。
これをな・・・こうするのだっ！
じいちゃんは手に握られた小刀で空中に舞い上がった葉をみじん切りにして
見せた。
こんなもんか。
そんな特技があつたんだ・・・
無駄に特技を見せたわけじゃない。私の腕を見よ。
え・・・？・・・これは・・・^{うみ}濃、かな。
違う。これは樹液だ。

座敷童子

透 あんず 桂 SE 透 あんず 透 あんず 透 あんず SE 透 あんず SE 透 あんず SE 透 あんず

透 あんずちゃん、ケンカ売ってる？
ちゃん付けで呼ぶな、気持ち悪い。
(心に突き刺さる音) IN
ひどっ

透 あんず、でいいよ。さっ、質問に答えて！
一応人間だと思っけど
なに、なんか自信なさそうだなあ。
誰のせいだろう。

SE (飲み物の入ったコップを持ち上げる音) IN
桂 私のせいではないぞ。
透 あんずは妖怪です！
透 (お茶を吹き出す) ぶっ

透 良くないな・・・そういう冗談・・・全国の妖怪に悪いよ。

座敷童子

桂 そうだよ、あんず
透 とーるはあたしのこと知りたいの？
透 え、あ・・・
透 じゃあ、話す！
透 まだ何も言っていないのに！
透 だから寝ちゃダメだぞ？
透 いくらなんでも寝やしないよ・・・
透 嘘だあ！桂じいが話してるときからずっと眠そう！
桂 ほほう・・・そうだったのか透・・・
透 い、いや、違ッ、ちゃんと聞いてたよ！
桂 そうか？
桂 うんうんっ
透 じゃあしつもん！とーるは人間ですか？

座敷童子

透 お、オカルトね。今は・・・
桂 真樹からいろいろ聞いているが、部長やってたな。確か。
あんず ぶちよ？ぶちよって何？
桂 部長って言うのは、その仲間たちの中で一番偉い人のことさ。
透 ホントー！！とーる、ぶちよーなの！スッゴイんだね！
桂 (大声で叫ぶ) ふ、二人とも人の話を聞け！
透 なんだ、透。
透 俺はもうオカルト部には入ってない。辞めた。
あんず え・・・？
透 とーる、辞めたの？なんで？
透 勉強が大事だから。
あんず べんきよう？あんずより勉強が大事？
透 へ！？

座敷童子

あんず 妖怪だつってんじゃん！
桂 岩手県を中心とする東北地方で、旧家の奥座敷などに棲む妖怪。赤ら顔で、おかつぱ頭の子供の姿という。その家の運勢に関係を持つといわれる・・・
透 はっ・・・座敷童子——？
あんず 妖怪なんていないと思っただでしょ。とーる。
透 い、いや・・・
あんず オカルト部に・・・入ってたから・・・
透 え？とーる、オカルト部ってなに？
透 妖怪や幽霊やUFOの存在を信じて研究する部活のこと・・・かな。
あんず なんだ！とーる、あんずのこと知ってたんだね！
透 え
あんず ねーねー、今も入ってる？カオトル部

座敷童子

透 あんず
桂 さあて、そろそろ夕飯の支度だな。一度お開きしよう。
透 ふう・・・
桂 お手伝いするーっ
あんず あんずはアイツを起こして来い。
透 ーっ！
桂 あ、あの
透 ん？
桂 荷物とかどこにおいたらいい？
透 ああ、お前の部屋は二階の奥の部屋の押入れから行ける。

座敷童子

透 あんず
透 え、あ？いや・・・
透 とーるはあんずが嫌いなんだね・・・
透 え！？え！？
桂 罪なやつだねえ。
透 じいちゃんまで・・・
透 ち、違う、違うよ。
透 ・・・何が？
透 あー・・・辞めてない、やめてない！そう！やめてなかったんだ！
透 あっはははは。
透 ホント！？とーる、まだぶちよー？
透 え、あ、うん、うん、そう・・・

座敷童子

透

このあんずという少女に、言葉では言い知れないほど深い何かを、感じていた。

座敷童子

透

お、押入れ！？えっと・・・

あんず どうしたとーるっ

透 あ・・・いや。押入れってどこかな？

あんず 案内してあげるっ

透 あ、ありがとう。

(選考用セリフ その四)

透

(モノログ)こんな感じで、俺の受験生活はスタートを切った。なんだか変な人たちだし、こんな中でちゃんと生活していけるか少し不安はあるけど・・・きつといい意味で自分を変えてくれる、そんな気がした。

それと・・・もう一つ。

あっきたーのお米はせかいちー！

あんず